

がんの治療・予防に使える可能性がある化合物

ライセンス契約を受けていただき 本発明の実用化を目指していただける企業様を求めます。

FIR-SF3B1 (SAP155)、FIRΔ exon2-SF3B1の結合阻害する化合物のご紹介です。

◆背景

一部の白血病に発現するBCR/ABL1や一部の肺がんが発現するEML4/ALKのように、腫瘍細胞に特異的に発現する融合遺伝子が見出されています。この遺伝子にコードされた融合タンパク質を阻害する化合物が、がんの分子標的薬として臨床応用され、画期的な治療効果が得られています。しかし、あきらかに腫瘍細胞特異的に発現する融合タンパク質は上記2つのみであるため、現状その他多くのがんへの適応ができません。

◆発明概要

本発明は、がんの治療・予防に使える可能性のある化合物です。発明者らは、癌細胞内におけるFIR(またはFIRΔexon2)-SF3B1 (SAP155) 複合体の形成がFIRのc-Myc転写制御機能とSF3B1のスプライシング機能を同時に阻害するという新規のメカニズムをあきらかにしました。FIR(またはFIRΔexon2)-SF3B1 (SAP155) 複合体の結合を阻害する低分子化合物を開発する事により、がん治療をはじめとする医療応用を目指します。

◆特許情報

【特許番号】  
特許第6057408号  
【発明の名称】  
癌の予防剤および/または治療剤  
【出願人】  
国立大学法人千葉大学  
【代表発明者】  
松下 一之

◆応用が期待される分野

・がんの予防剤・治療薬

◆可能な連携形態

- ・実施許諾契約
- ・オプション契約(技術検討のためのトライアル契約)
- ・共同研究

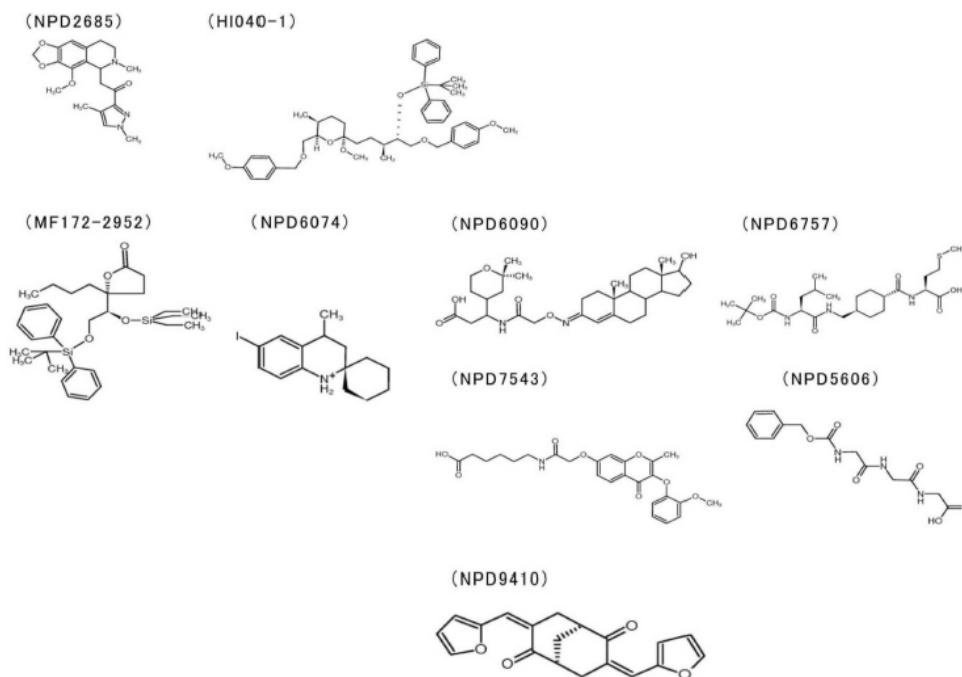


Fig.1 FIR-SF3B1 (SAP155) の結合を阻害する化合物群

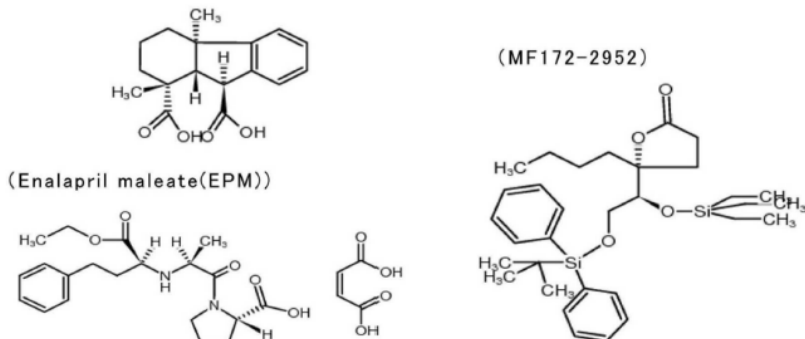


Fig.2 FIRΔ exon2-SF3B1 (SAP155) の結合を阻害する化合物群

◆お問い合わせ先

千葉大学  
学術研究・イノベーション推進機構  
〒263-8522  
千葉市稲毛区弥生町1-33  
TEL:043-290-3831  
E-mail:beo3566@office.chiba-u.jp



CHIBA UNIVERSITY

